

原 著

クリニカルパスによる食道癌周術期管理の 安全性と有効性：一般病院における評価

高 川 亮, 茂 垣 雅 俊, 渡 邊 純, 南 裕 太,
盛 田 知 幸, 舩 井 秀 宣, 長 堀 薫

横須賀共済病院 外科

要 旨：一般病院において、食道癌クリニカルパスによる周術期管理の安全性、忍容性および有効性を明らかにするため、クリニカルパスを使用した初期連続23例（パス導入群：A群）とパスを用いていない40例（パスなし群：B群）を比較して、その合併症発生率、パス完遂率と術後在院日数を比較検討した。両群間の背景因子に差は認めなかったが、治療成績（A群/B群：手術時間377/451min, 出血量220/483ml, 術後在院日数14/22日, 全て有意差あり）はA群で良好であった。Clavian-Dindo分類を用いた合併症の検討では、Grade2以上の合併症発生症例はA群で5例(21.7%), B群で21例(52.5%)に認め、A群で良好であった。しかしながら、Grade3以上の合併症はA群で2例、B群で4例と差は認めなかった。A群のクリニカルパス完遂率は19例(82.6%)であり、忍容性は良好であった。2領域郭清でのパス完遂率は90.4%であったが、3領域郭清を行った2症例のパス完遂率は0%であった。以上の結果から、一般病院においても、2領域郭清手術での食道癌クリニカルパスは忍容性が高く安全で有効な周術期管理であることが示唆された。

Key words: 食道癌手術 (Esophagectomy), クリニカルパス (Clinical pathway),
周術期管理 (Perioperative care)